

文豪いんすとうるめんたる

ベートーアルト

$\text{♩} = 112$
N.C. G D⁷ G C

わがは いわねこで ある
めろすわげき どしたかな

3 G Em⁷ Am⁷ D⁷

なまえ わまだな い
らずかのじゃちぼおぎやくのおおおのぞかなければならぬとけつしたため

5 G G⁷ C Cm

どこでうまれたかと んとけんと おがつかぬ
ろすにわせえじが わからぬめ

7 G D⁷ G G

なんでもうすぐらいじめじめしたと ころでにやあにやあないていたことだけ
ろすわそのぼくじ んである

9

Ab Ab Db Ab

わがはいわここはじめてにんげんとゆうものおみた
 ふえおふきひつじとあそんでくらしできた

11

Ab Ab Db Ab

しかもあとできくとそれわしよせえとゆうにんげんちゅうでいちばんどおあ
 けれどもじゃあくにたいしてわひといちばいにびんかんであ た

13

Fm Ab Eb Bbm

このしよせえとゆうのわときどきわれわれおとらえてにてくうとゆうはな
 きよおみめえめろすわそんおしゅ ぱつしのおこえやまごえじゅうりはなれた

15

Fm Ab Bbm⁷ Ab

しかしそのとおじわなんとゆうかんがえもなかたからべつだんおそれ
 めろすにわちちもははも ちない

17

C Dm G Am

ただかれのてのひらにのせられてす うともちあげられたときなんだかふ
 によ お ぼお も な い

19

F D⁷ G G⁷

てのひらのうえですこしおちついて しよせえのかおおみたのがいわゆるに
 じゅ うろ くの うちき ない も おととふたりぐ らしだ

21

C G C F

このときみよおなものだとおも たか んじがいまでもものこ ている
 このいもおとわそんのあるりつげな いちぼくじんおちかじかはなむこと

23

C G C C

だいいちもおおも てそおしよくされ べきはずのかおがつるつるしてその
 け こ んし き も まじ かかなのである

25

D D G D

あとねこにもだいぶあ たがこんな かたわにわいちどもであわしたのみ
 めろすわそれゆえはなよめのいしよお やらしゆくえんのごちそおやらおかい

27

D D G D

ならずかおのまんなかがあまりに と きしてい るそお
 まずそのしなじなおかいあつめそれ からとのおおじおぶらぶらあるいた

29

Bm D A Em

してそのあなのなかからときどきぷ うふう とけむりお ふく
 めろす にわ ちく ぼ の とも があ た

31

Bm D Em⁷ D

ど おもむ せぽく てじ つに よわ た これ
 せ り ぬん てい う す であ る

33

$A\flat$ G^7 Cm^7 Cm^7

がにんげんののむたばこたばことゆ うものであることわよおやくこ
い まわこ のしらくすのし でせ こお おし ている

35

$A\flat$ $B\flat^7$ $E\flat$ $B\flat m^7$

そのとも おこれからたず ねてみるつ もりなのだ

37

$A\flat$ G^7 Cm^7 Cm^7

ひさしくあわなか たのだから たずねていくのがたのしみである

39

$A\flat$ $B\flat^7$ $E\flat$ $E\flat$